

ファンクション〈副座標 ORIGIN〉

操作説明

2020年6月版

ファンクション<副座標 ORIGIN>とは

概略説明

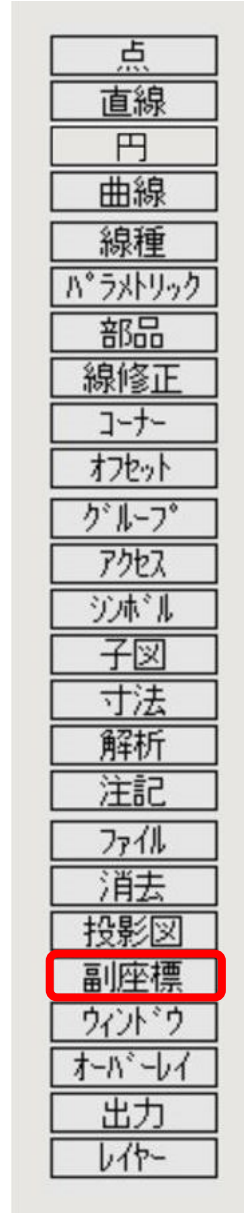
ファンクション<副座標 ORIGIN>では、1つのビューの中に、固有の原点位置、座標軸の向き、およびスケールを持つ複数の座標系を設定することができます。

MICRO CADAMでは、図面スタート時に自動的に作成されるビューの座標系を「基本座標系」といいます。

この基本座標系に対して、ファンクション<副座標>で設定する座標系を「副座標系」といいます。

この項で学習すること

- ・ 副座標系の作成
- ・ 角度のついた副座標の作成
- ・ 副座標系での寸法について
- ・ 副座標系を利用した部分拡大図の作成



副座標を設定します

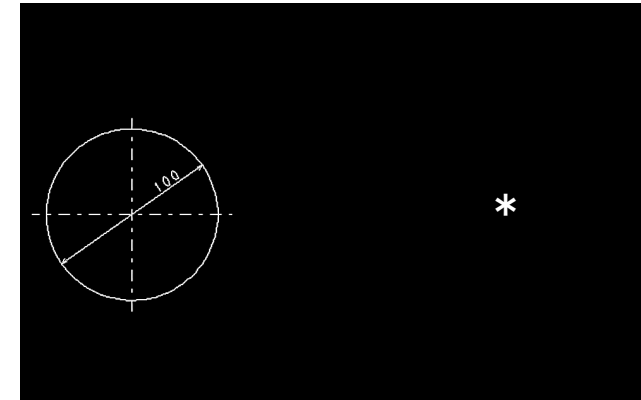
1. 図面「**ORIGIN01_BA20**」を開く [図1]
2. <副座標> 【設定】
3. Y/N (副座標系の角度 = 0を承認)
4. 副座標系の原点位置として、* 付近をIND
5. 副座標系の設定スケールとして、“2”をキーイン

指定した位置に、スケール2の副座標系が設定されます。[図2]
(新たに座標軸が表示されます)

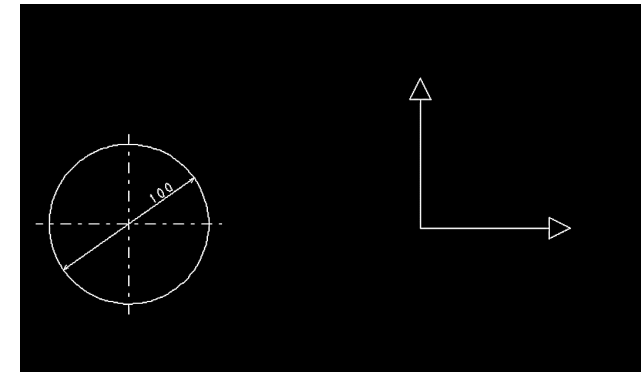
6. <円> 【円】
7. 中心点および半径として、“0,0,50”をキーイン

直径100mmの円が作成されます。[図3]

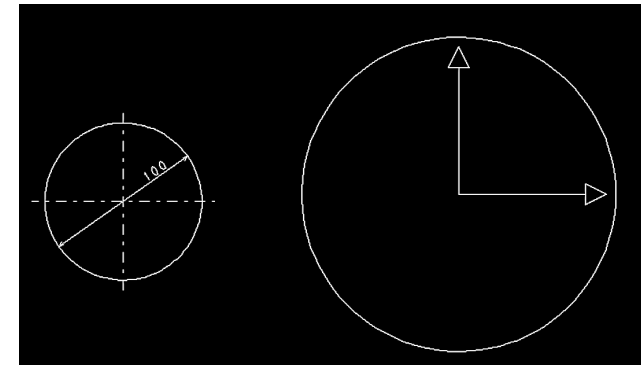
[図1]



[図2]



[図3]



新しい副座標系の作成と切替え

8. <寸法> 【自動】

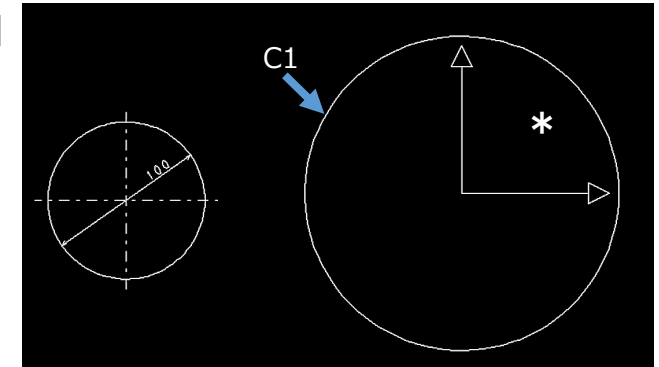
9. C1をSEL [図4]

10. 小数点以下の桁数指定として、“0”をキーイン

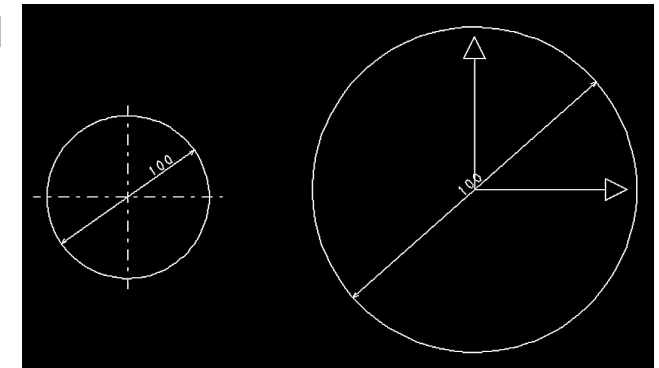
11. 寸法記入位置として、*付近をIND

12. 【↑】

[図4]

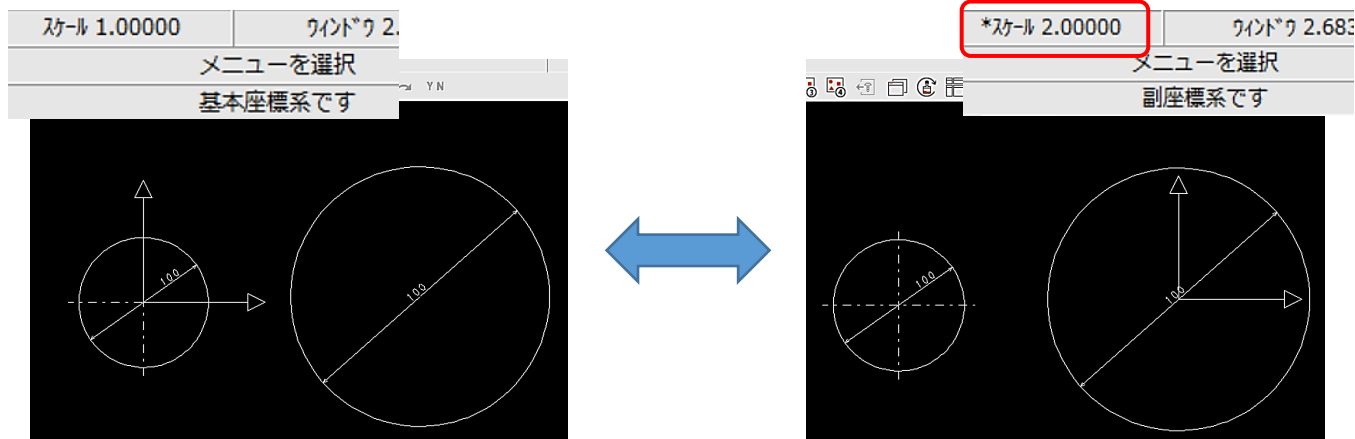


[図5]



C1に寸法が作成され、「スケール=2」の副座標であることが確認できます。[図5] 寸法数値の文字高および前置き文字については、ご使用の環境ごとに異なります。

<副座標>【切替】を選択すると、アクティブな座標系を切り替えることができます。画面上部のメッセージ域には、アクティブな座標軸が基本座標系か、副座標系かが表示されます。副座標系がアクティブになっている時は、ビュースケールに「*」が表示されます。



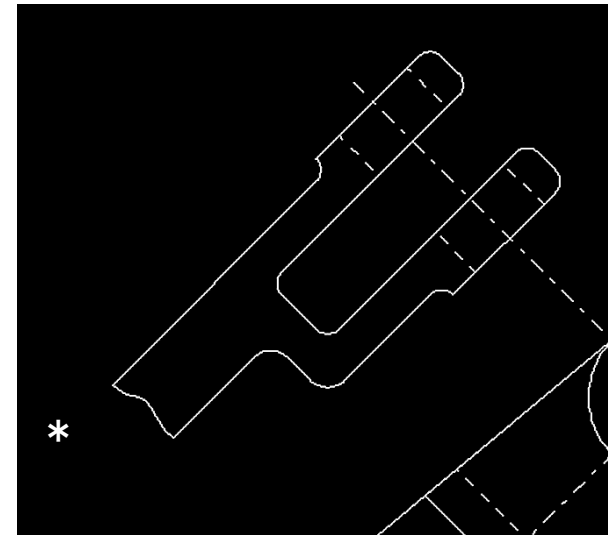
角度のついた副座標系の作成

副座標を設定します

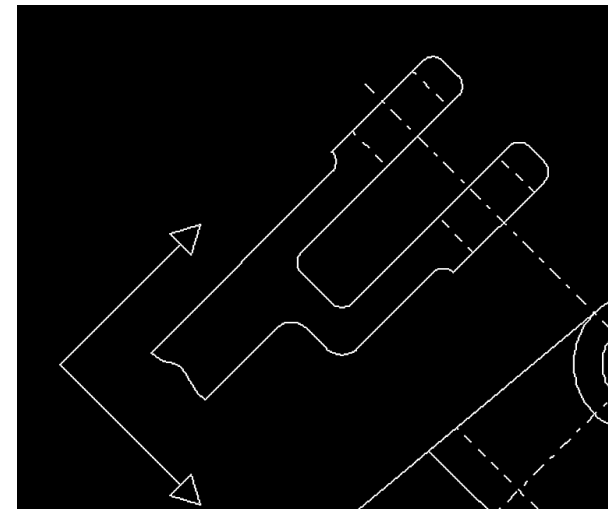
1. 図面「**ORIGIN02 _BA20**」を開く [図6]
2. <副座標> 【設定】
3. 副座標系の設定角度として、“-45”をキーイン
4. 副座標系の原点位置として、* 付近をIND
5. Y/N (スケール= 1 を承認)

指定した位置に、副座標系が設定されます。[図7]

[図6]



[図7]



副座標系での寸法記入

新しく設定した副座標系で水平寸法を記入します

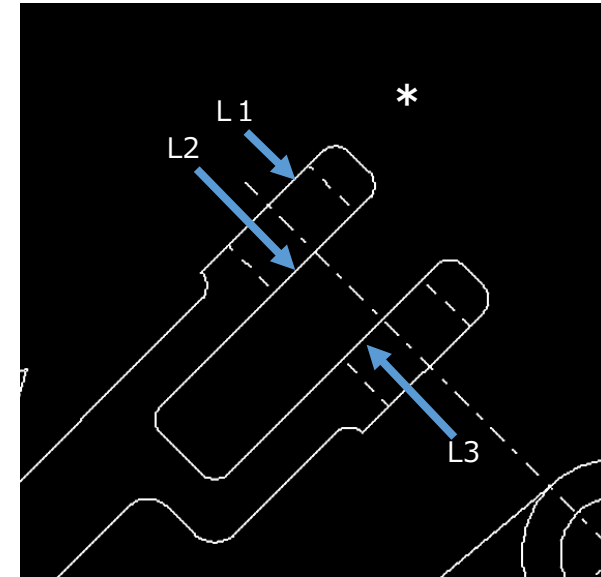
1. <寸法> 【水平】 「◎連」
2. L1をSEL [図8]
3. L2をSEL
4. 小数点以下の桁数指定として、“0”をキーイン
5. 水平寸法の記入位置として、L1の右上（*付近）をIND

指定した位置に水平寸法が作成されます。[図9]

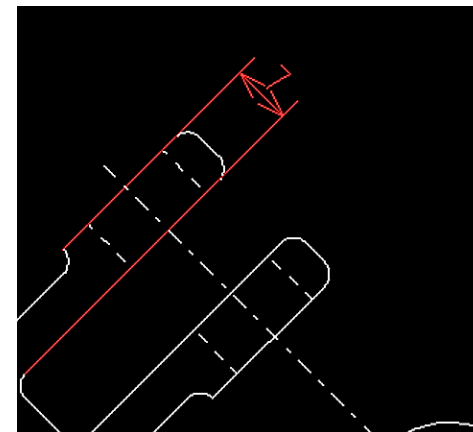
6. L3をSEL

連続して寸法が作成されます。[図10]

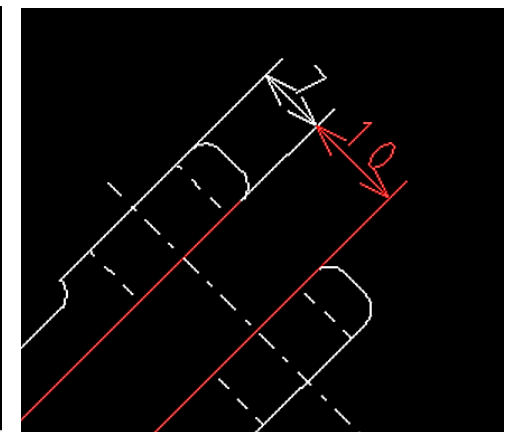
[図8]



[図9]



[図10]



7. L4をSEL [図11]

連続して寸法が作成されます。[図12]

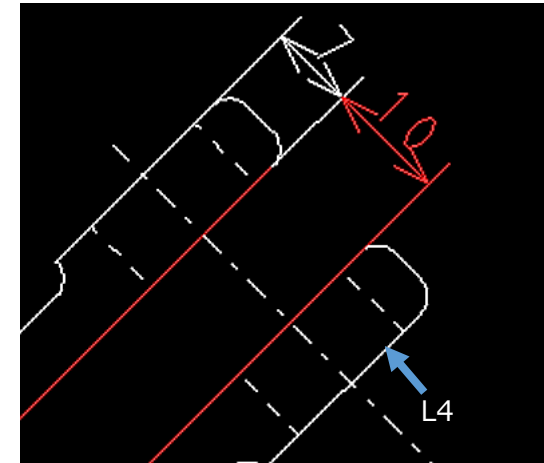
8. 「◎計」

9. 総計寸法の記入位置として、寸法の上側（* 付近）をIND

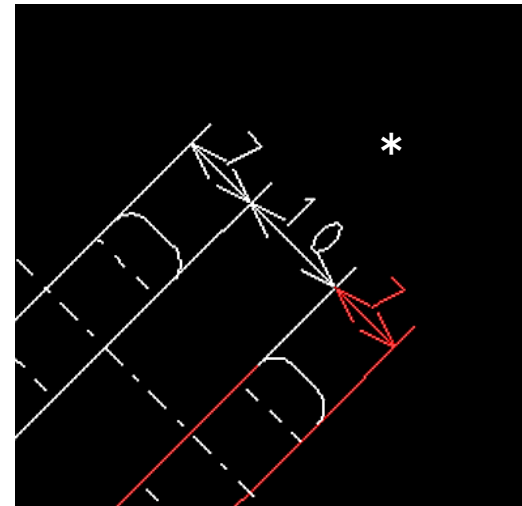
10. 【水平】

指定した位置に総計寸法が作成されます。[図13]

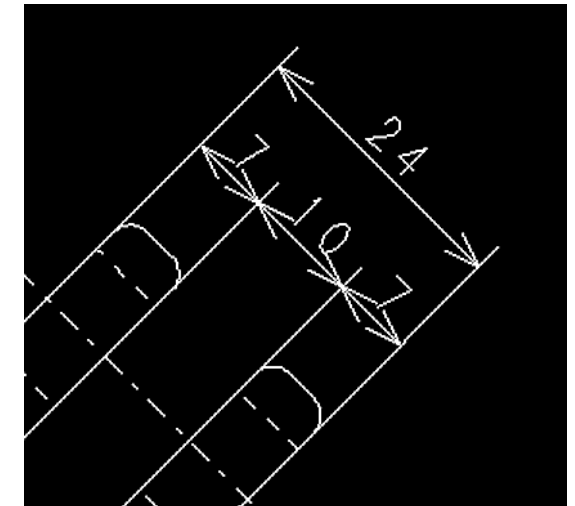
[図11]



[図12]



[図13]



副座標系での寸法記入

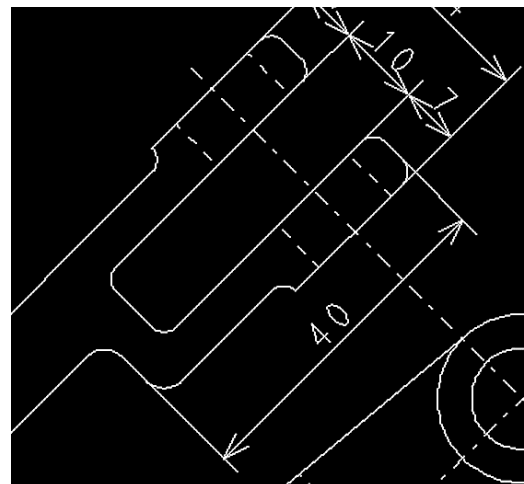
11. <寸法> 【垂直】 「◎単」
12. L5をSEL [図14]
13. L6をSEL
14. 垂直寸法の記入位置として、L5の右側（* 付近）をIND
15. 【↑】

指定した位置に垂直寸法が作成されます。[図15]

[図14]



[図15]



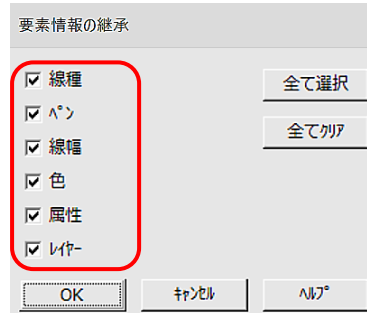
副座標系を用いた部分拡大図の作成

部分拡大図を作成します

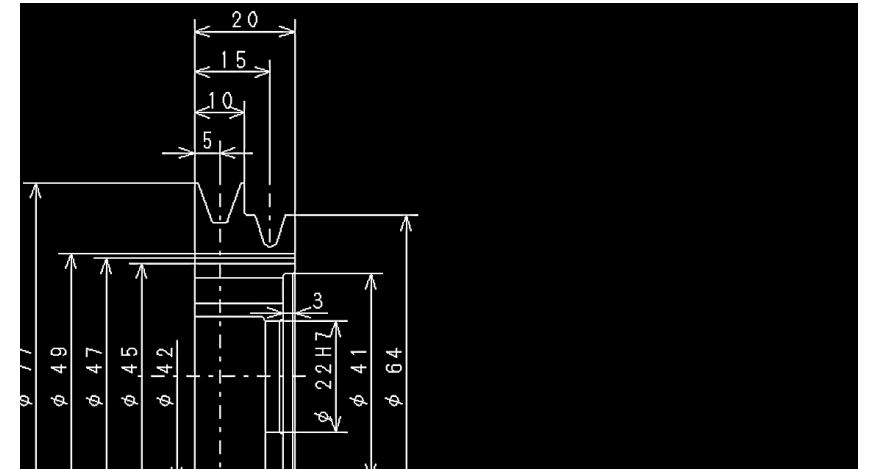
1. 図面「**ORIGIN03_BA20**」を開く [図16]
2. <副座標> 【拡大図】
3. 【設定】

拡大図の設定ダイアログが表示されます。 [図17]
4. [枠の表示] [拡大図]
5. [スケールの入力] [倍率]
6. 「閉じる」

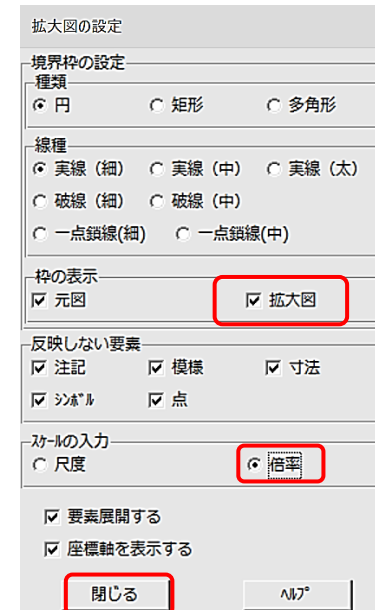
画面上部のメニュー・バー「線種」の「継承モード」を選択し、要素情報の継承がすべてチェックされていることを確認してください。



[図16]



[図17]



副座標系を用いた部分拡大図の作成

7. 部分拡大図の中心となる位置として、*① 付近をIND [図18]

8. 部分拡大図となる範囲指定の位置として*② 付近をIND

9. 【スケール】

10.Y/N (スケール=2.0 を承認)

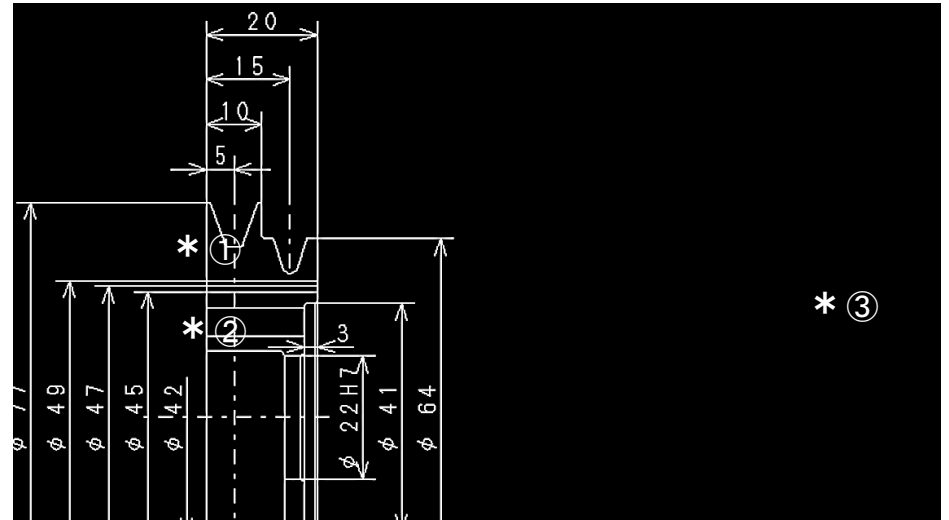
11. 範囲指定された部分拡大図の作成位置として、
*③付近をIND

指定した位置に新たな副座標系が作成されて、範囲内の要素が指定倍率となり複写されます。スケッチは、各セグメントを直線および円弧に展開し、複写されます。[図19]

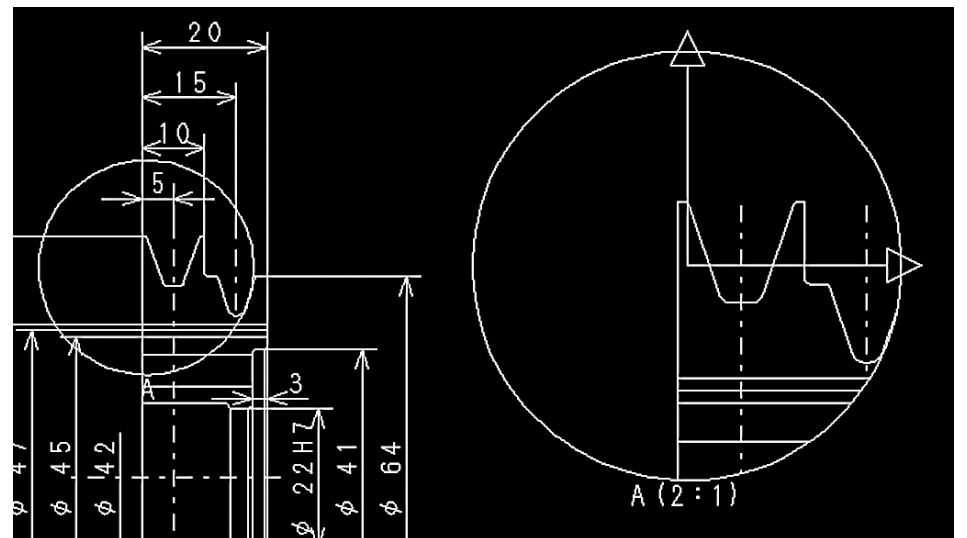
12. 【↑】

13. 【軸不表示】

[図18]



[図19]



部分拡大図に寸法を記入

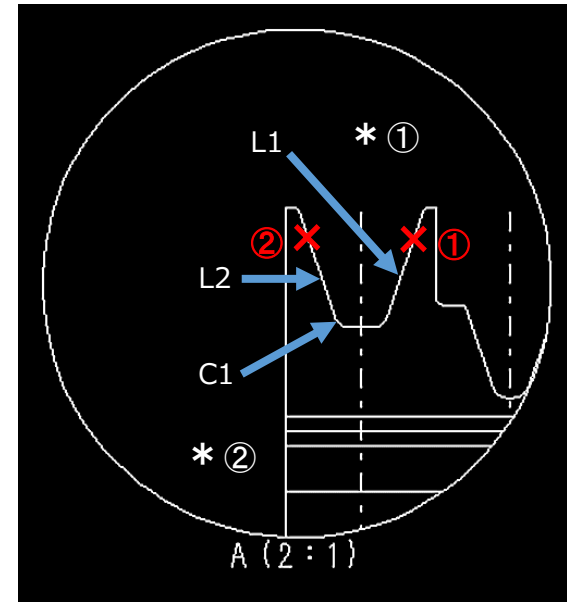
作成された部分拡大図に寸法を記入します

1. <寸法> 【角度】
2. 小数点以下の桁数指定として、“0”をキーイン
3. L1 (×①付近) をSEL [図20]
4. L2 (②×付近) をSEL
5. 寸法の記入位置として、L1の上側 (*①付近) をIND
6. 【↑】
7. 【半径】 「◎補助」
8. C1をSEL
9. 寸法の記入位置として、C1の左下 (*②付近) をIND
10. 寸法の移動位置として、C1の左下 (*②付近) をIND
11. 【↑】

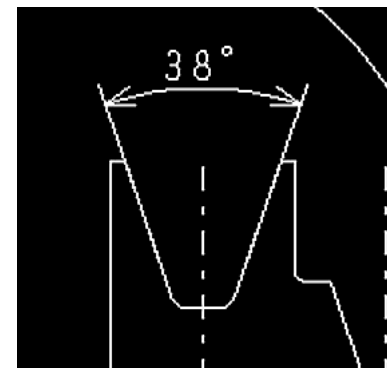
指定した位置に角度寸法が作成されます。[図21]

指定した位置に半径寸法が作成されます。[図22]

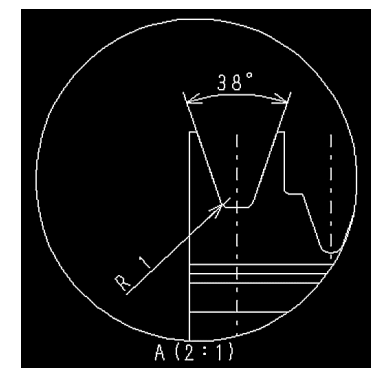
[図20]



[図21]



[図22]





※当資料内の文章・画像・商標等（以下、「データ」）に関する著作権とその他の権利は、弊社または原作者、その他の権利者のものです。企業等が非営利目的で使用する場合、個人的な使用を目的とする場合、その他著作権法により認められている場合を除き、データは弊社、原作者、その他の権利者の許諾なく使用することはできません。

※データ等のご利用またはご利用できなかったことによって生じた損害については、弊社は一切の責任を負わないものとし、いかなる損害も補償をいたしません。

※掲載されている内容は2020年6月時点のものです。内容は、事前の予告なしに変更することがあります。

MICRO CADAM、MICRO CADAM Helix は、株式会社CAD SOLUTIONSの商標です。
他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。